

京都ノートルダム女子大学 大学報
NDキャンパス通信

VOL.15
2021年12月1日

京都ノートルダム女子大学 大学報
創立60周年特別号
キャンパス通信

KYOTO
NOTRE DAME
UNIVERSITY

th
Anniversary



ー創立60周年ー 今を受けとめ、未来を築く

理事長 **和田 環**

京都ノートルダム女子大学は今年創立60周年を祝います。これまでの歩みに心から感謝しております。その記念事業のテーマ「共生社会を創造する女性の育成」は建学の精神に基づくモットー「徳と知」を、今、この時にふさわしく現実化したものと、嬉しく心強く感じています。

私たちは、新型コロナウイルス感染症蔓延によるパンデミックの中で大学創立60周年を迎えています。2020年2月に始まったコロナ禍の影響は、日本社会そして地球上のすべての国々に及んでいます。私たちの大学も、経験したことのない事態に直面し、卒業式、入学式の中止、オンライン授業等々、柔軟に、機敏に対応してきました。自粛生活を強いられた影響で、4年間の学生生活の半分近く、大学への入構不可となり先生や友達に会うこともできず、アルバイトも出来ず、学生たちのストレスは積み重なっています。デルタ株の感染拡大の勢いは強く、医療崩壊も危惧され、経済状態の悪化で将来に不安を抱く人が増えてきています。

国外に目を向けると、パンデミックの加速度的拡大に、ワクチン供給が追い付かず、富裕な国々と、低所得国間に世界的ワクチン格差が広がり、欠乏国は低迷から抜け出せず、世界経済の二極化に拍車がかかっている状態です。

急激に生活・社会システムを大きく変容させているこの変化の時代に、「人をつなぎ、社会を紡ぐ」というロゴマークをかかげ、これからの共生社会の担い手となる、志高い女性の育成を目指して行われる創立60周年記念事業は、まことに時宜を得たものと思われます。

この10年間、私たちは、「徳と知」を具体的に「ミッション・コミットメント」として言葉化し、その深い聖書的裏付けを味わいつつ、それを生きること努めてきました。

「尊ぶ」 人と自分、物と自然のすべてに敬意をもって向き合う。
「対話する」 心を込めて聴き、かわりから学び、真理を探究する。
「共感する」 心を開き、人や時代の要請に敏感な感性を持つ。
「行動する」 対話し、決断し、責任をもって人々の幸せと世界平和のために行動する。

他国の人々にも思いを馳せながら現在の苦境を生き抜き、パンデミック後の世界を築くために、このミッション・コミットメントを生きる決意を、今一度、皆で新たにいたしましょう。

神への深い信頼をもって、この生き方をなされた

ノートルダム・私たちの聖母マリアが、

いつも 私たちと共に歩み、力づけてくださいますように。



創立60周年 「徳と知」の精神を次代に

学長 **中村 久美**

2021年、京都ノートルダム女子大学は、創立60周年を迎えました。折しも今、地球環境問題は、世界で頻発する激しい気象災害が象徴するように深刻化し、その上に見舞われたCOVID-19によるパンデミックは、われわれの生活に陰を落とすだけでなく、社会に横たわる分断や格差を顕在化させました。

激動の中で迎えた創立60周年、高等教育機関として新たな1歩を踏み出すわれわれが掲げたテーマは、まさに「共生社会を創造する女性の育成」です。今、社会に求められるのは、分断をつなぐしなやかで温かい人間性と、毅然として問題に向き合う知性、まさに本学の建学の精神「徳と知」です。

ノートルダム女学院中学高等学校に通う生徒の保護者の熱い要望に応じて、京都北山の地に開学し、社会の要請と地域との繋がりの中に、その形を変えてきた本学は、現在、ルーツとなるリベラルアーツの国際言語文化学部（英語英文学科、国際日本文化学科）と、職業人養成を前面に出した現代人間学部（生活環境学科、心理学科、こども教育学科）の2学部体制、入学定員は紆余曲折の末、370名となっています。

正真正銘の小規模大学とはいえ、50周年時にはまだ途上にあったキャンパス整備も一応の完成を果たし、図書館、食堂を内包するユーゲニア館には、ホールや廊下のあちこちに、新たに学生の個別学習スペースを装備して、居心地の良い大学施設が整いました。教育に関しては、この新型コロナウイルス感染症予防対策期間において、迅速にオンライン授業を実施し、その授業に対する学生評価アンケートを反映した授業改善にもいち早く取り組むなど、小規模大学ならではの機動力と柔軟性を発揮しています。さらに大学のDX化に関する文科省事業への採択や、情報リテラシーに関する学部横断プログラムの開講など、社会の要請や高等教育の流れに即応する教育への取り組みは、大いに胸を張るものと自負しています。

ジェンダー問題がいまだに一進一退の日本では、当面、女子教育に特化した大学の価値は十分存在し続けるといえるでしょう。60年一巡りした本学にとっては、いよいよここから本領発揮のしどころと、教職員一同、気持ちを新たに努力を積み重ねていきたいと考えています。

卒業生の皆様、それから在学生の保護者の皆様をはじめ、本学に関わりを持つすべての皆様には、今後とも、本学の取り組みに深いご理解とご支援をたまわりますように、心よりお願い申し上げます。



祝創立60周年

第7代学長 **藪内 稔**
(2009～2013)

創立60周年おめでとうございます。最近、大学のホームページにアクセスする度に、大学の力強い取り組みについての新たなニュースに接して驚嘆し、感動しています。

- ・文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」に認定される。京都の私立大学では唯一（2021.08.04）
 - ・「THE世界大学ランキング日本版2021」において国際性が全国で61位、関西の女子大学では2位（2021.03.25）
 - ・文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択（2021.03.12）
 - ・文部科学省「令和2年度私立大学等改革総合支援事業」に選定（2021.03.03）
- また学生においては、
- ・本学外国人留学生が京都府名誉友好大使に任命（2021.06.29）
 - ・「京炎そでふれ！輪舞曲」が「琵琶湖よさこい2021」にて大賞受賞（2021.06.11）、等々。

大学OB教員として、また創立50周年事業に携わった元学長として、創立60周年に際して目覚ましい成果を次々と収められている本学が誇らしく、大学教職員、学生その他関係各位の高い資質とご努力に対して敬意を表します。

今後の益々の発展を祈念します。



創立の理念を深め続ける 記念の年に

第9代学長 **眞田 雅子**
(2017～2019)

創立60周年のお祝いを申し上げます。学校法人ノートルダム女学院設立のために、1948年に京都への第一歩を記した四人のシスター方のうち、私はSr.ユーゲニアとSr.ヴィヴィアンと共に働く幸運を得ました。Sr.ユーゲニアは学長、Sr.ヴィヴィアンは英語英文学科教授でいらっしゃいました。米国留学を終えて直ぐ職場を与えていただき、「徳と知」を建学の精神とするSSND教育に直接触れる機会を得たことは、十分言葉で表現できない大きな恵みであつたと考えております。

「徳と知」が具体的に表す内容は、来日されたお二人の振る舞い、生き様を通して伝わってきましたが、別の言葉で置き換え説明することは困難でした。教員集会で、Sr.田代学長に向け、多くの教員が、辞書の説明を求め、シスターを困惑させたことも記憶にあります。本来、建学の精神とはその大学で教育に当たる一人ひとりの人生の在り様に懸かってくるものです。2008年、ND教育のすべての現場に係わる者の「私たちの決意」が作成されたことは、建学の精神が深められ、具体的な形で示された成果でした。

創立60周年に当たり、「マリアの賛歌」（ルカ1:46-53）の内容の実現に向け、「私たちの決意」が、深く構成員に染み渡ることを祈ります。



次の六十年に向けて

第8代学長 **芹田 健太郎**
(2013～2017)

創立60周年おめでとうございます。卒業生、在校生、保護者の皆さま、教職員の皆さま、お祝いに加えていただき有難うございます。

思えば不思議な縁です。一期生の皆さんが一年生の時、僕は京都で学部の三年生でした。卒業後大学院に進みましたので、一期生から三期生ぐらいまでの方たちには多くの知り合いがいます。今でも、神戸や明石に住む一期生ご夫妻とは時に食事を一緒にしたり、お喋りを楽しんでいます。また、東京在住の卒業生の会でお話していた折、私は学生の折、先生の高野教会での結婚式に参列しました、と言われ、とても驚くとともに、皆さんのつながりの深さに驚きました。名古屋の方たちは猫談義をしたり、山陰の方たちとは大山に登ったり、楽しく過ごさせていただきました。

ノートルダムを変わず支える英語と生活文化を中心に、今では、乳幼児や小学校教育、障害者教育のほか、広く社会福祉、心理学等まで、人間の諸課題に取り組む存在となっていることに敬意を表します。

さて、現在世界中で猛威を振るうコロナウィルス（COVID-19）は教育の在り方も変えました。僕など考えも及ばないインターネットによる遠隔授業が導入され、学生のみならず、教員たちもIT機器を使いこなさなければならなくなりました。僕など会議がZoomによるものは一切回避し、まさに閉籠りです。しかし、世界中が繋がったことも事実です。新しい可能性が一気に花開いた、とも言えます。大学での教育を卒業生にも、どこからでも利用できるように開放できます。

人類は誕生以来物理的に一緒に過ごしてきました。集まることは、まさに人間の本質と言えます。周知のように、9・11のとき、僕も自宅で同時進行で惨劇を観ていましたように、テレビが同時に世界を繋いだことも思い出します。今、世界中でマスクをし、インターネットで繋がっていることは、バベルの塔で互いに異語をしゃべり世界中に散って行って以来はじめて、まとまった、と言えます。次の60年は、これらの上に打ち建てられます。

創立60周年を祝うこの時期は、いわば次のステップへの過渡期となりました。ノートルダムの更なる発展を願っています。



創立60周年に寄せて

同窓会会長 **黒崎 久美子**

創立60周年、謹んでお祝い申し上げます。同窓会は、下鴨本通から大学への動線になるよう構築物（Marian Monument）を贈らせていただきます。

時代は、良妻賢母から女性の政治・経済への進出へと移り変わって参りましたが、見事に順応を遂げて参られました。しかし、女子大学離れの厳しい昨今です。帝国データバンクの全国「女性社長」分析調査（2021年）によると、女性社長比率は8.1％、2年ぶり上昇で過去最高となり、その中20年から最も増加した女性社長の出身校女子大学の中では、母校が何と2位との事です。これは、どんな状況下に置かれても、試行錯誤し弛まぬご努力の賜物だにご尽力に対して厚く御礼申し上げます。そして希望の光に他なりません。

新型コロナの拡充によって先行き不透明な暗雲漂う時でも有り、大学や学生におかれましても本当に大変な事と存じます。同窓会と致しまして共に歩み、微力ながら何かお手伝い出来ればと思います。

これから、益々母校が更なる発展をされる事を心からお祈り致します。そしていつ迄も我々の心の中に「ミッションコミットメント」が生き続ける事を！

カリキュラム改革2021

「対話」から始まるND教育

京都ノートルダム女子大学は、「私たちの決意」としてミッション・コミットメントを持つ大学です。これを基盤に、教育マネジメント会議では、「対話」を日々の教育で実践することを考え、それをテーマにしてカリキュラム改革の方向性を検討しました。議長である眞田雅子前学長在任中の平成31(2019)年10月には、2021年度からの新カリキュラムの在り方を、『「対話」から始まるND教育』としてとりまとめました。

それを踏まえ、現議長の中村久美学長のもと、4年間を通して「ことば」の力を育てることを重視するとともに、全学生が取り組む卒業研究を、「集大成」として捉え直しました。そのうえで、共通教育、専門基礎、専門展開などの科目における多様な学びを経ながら卒業研究へと至る道筋を、「対話」を通して構築するために、学部・学科・教育センターで検討を重ね、2021年度、新カリキュラムをスタートさせました。学生一人ひとりの成長を支え続けてきた京都ノートルダム女子大学のブランドを確固たるものとして社会に発信することをめざし、今後も不断の改革を進めていきます。



カリキュラムツリー作成ワークショップの様子

生活環境学科名称変更記念公開講座

2021年7月3日に現代人間学部生活環境学科は、東京医科大学の小野政徳先生をお迎えし、本学科の藤原智子教授とともに「若年女性の朝食欠食と月経痛一時計遺伝子が刻む負の記憶」と題した学科名称変更記念公開講座を実施しました。

朝食は体内時計の調整に重要な役割を果たしており、欠食は様々な不調を引き起こします。特に次世代の命を育む若年女性では将来の妊孕能に悪影響を及ぼすリスクが懸念されますが、藤原教授と小野先生らの研究グループは思春期から若年成人期の朝食欠食やダイエットによる性機能障害がその後に産婦人科疾患を誘発するという新しい概念をADHOGDと命名して学術雑誌に発表しました。本講座では長年の研究成果に基づいて大学の教育現場と産婦人科の医療現場の視点から学生時代の食生活が将来のQOLに大きく関わっている可能性が示されました。

コロナ禍での開催のため参加人数に制限はありましたが、活発な質疑応答もなされ、来場者からはあらためて食生活を考える契機となったとの感想が多数寄せられました。



国際日本文化学科公開講座

2021年10月30日に国際言語文化学部国際日本文化学科は、京都高低差崖会崖長で本学の非常勤講師でもある梅林秀行先生をお迎えし、本学科の鷲見朗子教授、中里郁子准教授とともに「京都再発見ー観光と宗教の協奏」と題した公開講座を実施しました。新型コロナウィルス感染症対策として、会場での参加人数には制限がありましたが、予定していた定員数は予約で満杯となり、当日はのべ200人以上の方にオンラインでご視聴いただきました。この公開講座は、国際日本文化学科が今年度スタートさせた国際観光プログラムも記念しています。

冒頭、梅林先生が時代や様式が異なるものが共存している銀閣寺の個性を通時的に分析され、続いて中里准教授が京都のキリシタン遺跡を紹介しました。最後に、鷲見教授がイスラーム教徒から見た京都の魅力やイスラーム教徒を迎えるために必要な準備などについて語られ、三人の先生方のお話に会場もオンライン上も、新しくも深い京都の魅力に思いを馳せた次第です。やがて京都は多くの観光客で再び賑わいを取り戻すでしょう。この講座は再スタートの一步になったに違いありません。



英語スピーチコンテスト

The 11th Kyoto Notre Dame University English Speech Contest was held on Saturday, October 16, 2021. This annual speech contest began in 2011 as one of the commemorative events celebrating the University's 50th anniversary and continues the tradition with this year's 60th anniversary festivities.

We invited applications from high school students from around the country to deliver original and well-crafted speeches on any topic of their choice. This year we received 40 applications, and after evaluating the candidates we were able to narrow the field to 10 contestants.

For the second year in a row, the contest was held online via Zoom and YouTube due to the ongoing pandemic. The 10 finalists submitted video recordings of their speeches, which were made available on YouTube for judging and public viewing. The judging panel comprised three native-speaking English teachers (York Weatherford, Lyle De Souza, and Gretchen Clark), who all observed that the contestants' speeches were of a very high quality, making it difficult to choose only three winners. In the end, the First Prize was awarded to a student from Kyoto Municipal Saikyo Senior High School for her powerful speech that called attention to the serious issue of "Racism in Japan." The Honor Prize went to a student from Tokyo Metropolitan Kokusai High School for a skillfully delivered speech called "The Meaning of Richness." Finally, a student from Suma Gakuen High School received the Special Prize for her speech titled "Walking Towards a Dream," which described the benefits of walking for stimulating creative thinking.

The speakers should all be commended for their efforts. We look forward to another strong group of competitors at the next contest.



学習アドバイジングの拠点整備

心地よい学習スペースの拡充とND教育センターの充実

急速に変化する現代社会にあって、大学での学びも大きく変わっています。授業は、その質保証の観点から、これまでのような対面での実施に加え、それぞれの特性に応じてオンラインを活用するなど多様になりました。それにとともに、学生の学習スタイルも多様化してきました。

大学では、そうした状況に対応するため、ユージニア館を中心に学習環境の整備をしてきました。各関連部署が連携し、ネットワーク環境を整備したスタディスポット(個別学習スペース)、さらに4階には一つひとつが仕切られた個別学習ブースを設置しました。

一方で、大学での専門的な学びを深めるためには、基礎的な学力を確かなものにすることが重要です。ND教育センターでは、基礎英語・情報・文章作成といった学習アドバイジングを実施しており、多くの学生が利用しています。また、2021年度後期からは教職課程に関する支援も行っています。さらに、教育企画開発を担う部門の設置も予定しており、学修者本位の教育実現のため発展していきます。



キャリアセンターの充実

キャリア形成を支援するシステムの充実強化

創立60周年を迎えるにあたり、学生への更なる支援の充実と大学の発展をめざし、キャリアセンターの充実を図ることといたしました。

2021年度(令和3年度)キャリアセンターでは以下の3つの重点項目の推進を掲げています。

- ① 留学生キャリア支援の強化
- ② 客観的データに基づくキャリア支援体制の構築
- ③ キャリアアドバイザー・外部講師による支援

この3つの重点項目中②「客観的データに基づくキャリア支援体制の構築」を今回の記念事業として位置付け実施いたしました。具体的には、学生が志望企業の選択を行う際、とすれば企業のイメージであったり、自分の身の回りで接する商品やサービス関連の中から、感覚的になんとなく企業を選択しようとする傾向があり、その結果ミスマッチが生じたり、自らの労働観とは異なる選択を行い、就活が空回りしてしまうことが少なくありません。

そこで、今回東洋経済新報社の企業データベースを導入し、過去に採用実績のある企業などのピックアップや、各自で企業の基礎的情報を確認し、より深い企業研究を行うための情報の質向上を図りました。また、コロナ禍でステイホームを余儀なくされる学生が、自宅からでも求人情報の検索、各種イベント検索・予約、面談・相談の申込等が行えるようシステム機能を向上させ、イベント参加や面談・相談については、対面でも、オンラインでも利用が可能な体制も整え強化を図ったところです。



1日で採用選考の模擬体験「Virtual Recruit」実施風景

キャンパスの環境整備

下校時の安全安心をめざした大学外構夜間足元照明の設置

60周年記念事業の一つとして、本学正門(キャンパス南側)を挟んで東西に足元を照らすLED照明を設置いたしました。通学する学生には下校時、寮生には帰寮時の安全・安心を目的としております。照明は約3.3m間隔で、正門西側(91m)に28台、正門東側(124m)に38台を設置し、石垣の美観を損なわないようにセンターあるいは目地に合わせて設置をしました。照明は、明暗センサーとタイマーで動作し、日没とともに点灯、寮の門限時間に消灯します。工事は8月26日に開始し、凡そ2か月で工事を終えました。

南西角には、同窓会のマリアンコーナーの工事も11月末に終了し、キャンパスに新たな彩りを添えることになります。



60周年記念菓子

京都ノートルダム女子大学が創立60周年を迎えることに合わせて、酒井ゼミ地域協働ぶろじゅくとでは記念品として、社会福祉法人修光学園ワークセンターHalle!様と協働で本学のスクールカラーと5学科のイメージカラーを取り入れた焼きドーナツを考案しました。

焼きドーナツは丸く、人をつなぎ、社会を紡ぐことをイメージし、各学科の学生、卒業生が本学で得た考える力や行動力をさまざまな場面で発揮し、共生社会の実現に寄与することをイメージしました。

私たちは、イメージカラーを実現させるためにドーナツの味を何にするか、パティシエさんと話し合い、決めていきました。味にもこだわり、お店ではあまり見えない味に挑戦しました。理想の色に近づけるためにも何度か試作してもらい、みんなで検討していきました。また、60周年の記念品ということで包装の見栄えを考え、本学のイメージカラーであるブラウンを取り入れてゴールドのシールで品のある仕上がりになるよう工夫しました。

(福祉生活デザイン学科 4年次生 西田 礼、岡部 紗季、宇田 千紘、横江 美里)



写真で見る10年 (2012~2021)

世界とともに、地域とともに

カトリック教育



旧キャンパスでの
授業風景



新キャンパスでの
授業風景



ユーゲニア玄関のマリア様



ローマ教皇来日行事



環境教育
〈自然と遊ぼう!〉



京都府立医科大学との連携



地域との
お菓子の共同開発



京小麦展開のための事業



ASEACCU 派遣開始

1961

ノートルダム
女子大学設立

1999

大学名を
「京都ノートルダム
女子大学」と改称

2012

心理学部心理学科
現代心理専攻開設
(発達心理専攻より名称変更)

2013

英語英文学科 グローバル英語コース
(英語教養コース) 誕生
新ユーゲニア館完成
図書館完成

2014

2015

全館リニューアル完成
マリアンハウスの新設
保護者会からの噴水寄贈
修道院からの聖堂寄贈

2016

徳と知
教育センター
設置

2017

現代人間学部
福祉生活デザイン学科、
心理学科、こども教育学科開設
(生活福祉文化学部、
心理学部を改組)

2018

公認心理師
カリキュラム
開始

2021

現代人間学部
生活環境学科開設
(福祉生活デザイン
学科より名称変更)

記憶の継承



旧キャンパス



新キャンパス



旧キャンパスの床材を
使用した噴水



図書館



聖堂



マリアンハウス



設立当初からの調理実習室

新しい知の創造



各学部の授業風景
(国際言語文化学部)
(現代人間学部)



イメージンスペース

ラーニングcommons



インテリアデザインラボ



南西角モニュメント

歴代理事長（2012-2021）	歴代学長（2012-2021）
和田 環 2008(平成20)年11月20日～現在	藪内 稔 2009(平成21)年4月1日～2013(平成25)年3月31日 芹田 健太郎 2013(平成25)年4月1日～2017(平成29)年3月31日 眞田 雅子 2017(平成29)年4月1日～2019(令和元)年10月31日
	学長代行 中村 久美 2019(令和元)年11月1日～2020(令和2)年1月28日 中村 久美 2020(令和2)年1月29日～現在

歴代副学長（2012-2021）	心理学科主任	国際教育センター長	相良 憲昭
蒔苗 暢夫 2010(平成22)年4月1日～2013(平成25)年7月12日 中村 久美 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年3月31日 2017(平成29)年4月1日～2020(令和2)年1月28日 片山 裕 2014(平成26)年1月1日～2017(平成29)年3月31日	上田 恵津子 2013(平成25)年5月1日～2014(平成26)年3月31日 高井 直美 2014(平成26)年4月1日～2016(平成28)年3月31日 2017(平成29)年4月1日～2019(平成31)年3月31日 神月 紀輔 2016(平成28)年4月1日～2017(平成29)年3月31日 廣瀬 直哉 2019(平成31)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 伊藤 一美 2021(令和3)年4月1日～現在 こども教育学科主任 工藤 哲夫 2017(平成29)年4月1日～2018(平成30)年3月31日 田中 裕喜 2018(平成30)年4月1日～現在	沖原 勝昭 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 心理臨床センター長 桐野 由美子 2012(平成24)年4月1日～2016(平成28)年3月31日 向山 泰代 2016(平成28)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 三好 智子 2021(令和3)年4月1日～現在 キャリアセンター長 中村 久美 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 キャリアセンター所長 中村 久美 2013(平成25)年5月1日～2014(平成26)年3月31日 小林 多津子 2014(平成26)年4月1日～2015(平成27)年3月31日 萩原 暢子 2015(平成27)年4月1日～2018(平成30)年3月31日 吉田 智子 2018(平成30)年4月1日～2019(平成31)年3月31日 キャリアセンター長 須川 いずみ 2019(平成31)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 鷺見 朗子 2021(令和3)年4月1日～現在 徳と知教育センター長 片山 裕 2016(平成28)年9月1日～2017(平成29)年3月31日 中村 久美 2017(平成29)年4月1日～2019(令和元)年9月30日 教育センター長 中村 久美 2019(令和元)年10月1日～2020(令和2)年1月28日 神月 紀輔 2020(令和2)年4月1日～現在	第6代学長 Sr. メリー アナスタジア 小久保 喜以子 元カトリック教育センター教授 木原 和子 元生活福祉文化学部教授 五十嵐 節子 元人間文化学部教授 松井 千枝 元人間文化学部教授 藪内 稔 第7代学長 新井 康友 元人間文化学部教授 服部 昭郎 元人間文化学部教授 グレゴリー ビーターソン 元人間文化学部教授 岡村 敬二 元人間文化学部教授 米田 泰子 元生活福祉文化学部教授 野田 四郎 元人間文化学部教授 山本 智也 元生活福祉文化学部教授 村田 久行 元生活福祉文化学部教授 小林 多津子 元心理学部教授 加藤 明 元心理学部教授 中瀬 惇 元心理学部教授 大岸 素子 元心理学部教授 藤川 洋子 元心理学部教授 芹田 健太郎 第8代学長 片山 裕 元副学長 宮永 泉 元人間文化学部教授 桐野 由美子 元生活福祉文化学部教授 沖原 勝昭 元人間文化学部教授 古賀 一男 元心理学部教授 山形 恭子 元心理学部教授 鳥居本 幸代 元生活福祉文化学部教授 上田 恵津子 元現代人間学部教授 小林 順 元人間文化学部教授 橘堂 弘文 元国際言語文化学部教授 ロバート クリッツアー 元国際言語文化学部教授 吉野 啓子 元国際言語文化学部教授 眞田 雅子 第9代学長 堀 勝博 元国際言語文化学部教授 河瀬 雅紀 元現代人間学部教授
歴代学科長（学科学主任）（2012-2021）	心理学研究科長	名譽教授（物故者含む）	歴代同窓会長（2012-2021）
英語英文学科長 須川 いずみ 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 英語英文学科主任 小林 順 2013(平成25)年5月1日～2016(平成28)年3月31日 須川 いずみ 2016(平成28)年4月1日～2019(平成31)年3月31日 小山 哲春 2019(平成31)年4月1日～現在 人間文化学科長 吉田 智子 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 人間文化学科主任 堀 勝博 2013(平成25)年5月1日～2014(平成26)年3月31日 岩崎 れい 2014(平成26)年4月1日～2018(平成30)年3月31日 朱 鳳 2018(平成30)年4月1日～2019(平成31)年3月31日 国際日本文化学科主任 鷺見 朗子 2019(平成31)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 河野 有時 2021(令和3)年4月1日～現在 生活福祉文化学科主任 山本 智也 2013(平成25)年5月1日～2014(平成26)年3月31日 加藤 佐千子 2014(平成26)年4月1日～2017(平成29)年3月31日 福祉生活デザイン学科主任 牛田 好美 2017(平成29)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 生活環境学科主任 酒井 久美子 2021(令和3)年4月1日～現在	人間文化専攻主任 堀 勝博 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 応用英語専攻主任 小林 順 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 生活福祉文化専攻主任 竹原 広実 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 心理学専攻(博士後期課程)主任 発達・学校心理学専攻主任 上田 恵津子 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 臨床心理学専攻主任 向山 泰代 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 歴代センター長(館長・所長)（2012-2021） 学術情報センター長 高井 直美 2012(平成24)年4月1日～2013(平成25)年4月30日 図書館情報センター館長 須川 いずみ 2013(平成25)年5月1日～2016(平成28)年3月31日 河瀬 雅紀 2016(平成28)年4月1日～2018(平成30)年3月31日 萩原 暢子 2018(平成30)年4月1日～2019(平成31)年3月31日 図書館情報センター長 萩原 暢子 2019(平成31)年4月1日～2021(令和3)年3月31日 加藤 佐千子 2021(令和3)年4月1日～現在 カトリック教育センター長 宮永 泉 2017(平成24)年4月1日～2014(平成26)年10月31日 久野 将健 2014(平成26)年11月1日～現在	Sr. メリー ユーニア レイカー 初代学長 石田 幸太郎 元文学部教授 佐々木 申二 元文学部教授 Sr. メリー ヘレン フェレンツ 元文学部教授 渡辺 純 元文学部教授 Sr. メリーテレサ マーガレット ウィーヴァー 元文学部教授 Sr. メリー マイクル 田代 梅 第2代学長 水越 治 第3代学長 本多 正昭 第4代学長 ブレース ガイスラー 元人間文化学部教授 Sr. メリーグレイス 和田 トク子 元文学部教授 岡崎 義富 元人間文化学部教授 Sr. メリーセリオン 松本 佳子 元人間文化学部教授 栢田 庸 元人間文化学部教授 Sr. メリアン 押山 八重子 元人間文化学部教授 中埜 喜雄 元人間文化学部教授 山本 利治 元副学長・元人間文化学部教授 梶田 徹一 第5代学長 住田 幸次郎 元人間文化学部教授 北村 映子 元人間文化学部教授 中沼 光雄 元心理学部教授 上杉 省和 元人間文化学部教授	2019年度に人間文化学部から国際言語文化学部へ、人間文化学科から国際日本文化学科へ名称変更 2013年度に発達心理専攻から現代心理専攻へ名称変更 2021年度に福祉生活デザイン学科から生活環境学科へ名称変更 ●大学院(2011～2021) 期生 年度 国際言語文化学部(人間文化学部) ^{※1} 心理学部 生活福祉文化学部 現代人間学部 合計 英語英文学科 国際日本文化学科(人間文化学科) ^{※1} 学校心理専攻 臨床心理専攻 現代心理専攻(発達心理専攻) ^{※2} 生活福祉文化学科 生活環境学科(福祉生活デザイン学科) ^{※3} 心理学科 こども教育学科 48 2011(平成23) 122 57 63 73 15 73 - - - 403 ※49 2012(平成24) 4 2 0 1 1 2 - - - 10 49 2012(平成24) 106 43 43 53 16 64 - - - 325 ※50 2013(平成25) 3 0 1 3 0 5 - - - 12 50 2013(平成25) 66 46 40 55 12 69 - - - 288 ※51 2014(平成26) 1 3 2 4 0 2 - - - 12 51 2014(平成26) 54 57 46 64 12 75 - - - 308 ※52 2015(平成27) 4 2 2 0 0 4 - - - 12 52 2015(平成27) 66 39 27 61 11 86 - - - 290 ※53 2016(平成28) 2 1 0 0 0 1 - - - 4 53 2016(平成28) 58 44 40 63 21 71 - - - 297 ※54 2017(平成29) 2 1 1 1 0 3 - - - 8 54 2017(平成29) 94 46 36 39 15 70 - - - 300 ※55 2018(平成30) 1 0 0 0 0 0 - - - 1 55 2018(平成30) 54 33 29 44 15 59 - - - 234 ※56 2019(令和元) 3 2 0 0 0 0 - - - 5 56 2019(令和元) 66 41 33 44 11 74 - - - 269 ※57 2020(令和2) 1 3 1 4 1 2 - - - 12 57 2020(令和2) 65 31 1 2 1 1 32 49 42 224 ※58 2021(令和3) 2 1 0 1 0 0 - 1 0 0 5 ※1 2019年度に人間文化学部から国際言語文化学部へ、人間文化学科から国際日本文化学科へ名称変更 ※2 2013年度に発達心理専攻から現代心理専攻へ名称変更 ※3 2021年度に福祉生活デザイン学科から生活環境学科へ名称変更 ●大学院(2011～2021) 期生 年度 人間文化研究科(修士課程) 心理学研究科(博士前期課程) 心理学研究科(博士後期課程) 合計 応用英語専攻 生活福祉文化専攻 人間文化専攻 発達・学校心理学専攻 臨床心理学専攻 心理学専攻 9 2011(平成23) 1 0 2 1 7 0 11 ※10 2012(平成24) 0 1 2 0 0 0 3 10 2012(平成24) 1 1 3 5 11 0 21 ※11 2013(平成25) 0 2 1 0 0 0 3 11 2013(平成25) 0 0 3 1 10 0 14 ※12 2014(平成26) 0 0 0 0 0 0 0 12 2014(平成26) 1 5 2 1 8 0 17 ※13 2015(平成27) 0 0 0 0 0 0 0 13 2015(平成27) 0 1 1 2 3 0 7 ※14 2016(平成28) 0 0 0 0 0 0 0 14 2016(平成28) 0 1 2 1 10 0 14 ※15 2017(平成29) 0 0 0 0 0 0 0 15 2017(平成29) 0 2 0 1 3 0 6 ※16 2018(平成30) 0 0 0 0 0 0 0 16 2018(平成30) 2 0 0 2 7 0 11 ※17 2019(令和元) 0 0 0 0 0 0 0 17 2019(令和元) 1 0 0 1 8 0 10 ※18 2020(令和2) 0 0 0 0 0 1 1 18 2020(令和2) 1 0 1 1 9 0 12 ※19 2021(令和3) 0 0 0 0 0 0 0 ※9月卒業

学生数の推移 (2012-2021)

●学部 (2012～2021)

年度	国際言語文化学部(人間文化学部) ^{※1}		心理学部			生活福祉文化学部	現代人間学部			合計
	英語英文学科	国際日本文化学科 (人間文化学科) ^{※1}	心理学科			生活福祉文化学科	生活環境学科 (福祉生活デザイン学科) ^{※3}	心理学科	こども教育学科	
			学校心理専攻	臨床心理専攻	現代心理専攻 (発達心理専攻) ^{※2}					
2012(平成24)	325	216	178	272	58	326	-	-	-	1,375
2013(平成25)	276	202	178	282	61	337	-	-	-	1,336
2014(平成26)	303	200	166	266	66	333	-	-	-	1,334
2015(平成27)	312	178	149	232	68	308	-	-	-	1,247
2016(平成28)	304	178	154	219	68	292	-	-	-	1,215
2017(平成29)	317	162	112	152	48	216	37	58	46	1,148
2018(平成30)	296	161	69	105	31	140	77	120	110	1,109
2019(令和元)	323	182	39	59	13	78	127	198	161	1,180
2020(令和2)	347	210	5	12	2	3	189	302	239	1,309
2021(令和3)	321	214	0	4	0	-	203	321	244	1,307

※1 2019年度に人間文化学部から国際言語文化学部へ、人間文化学科から国際日本文化学科へ名称変更
※2 2013年度に発達心理専攻から現代心理専攻へ名称変更
※3 2021年度に福祉生活デザイン学科から生活環境学科へ名称変更

●大学院 (2012～2021)

年度	人間文化研究科(修士課程)			心理学研究科(博士前期課程)		心理学研究科(博士後期課程)	合計
	応用英語専攻	生活福祉文化専攻	人間文化専攻	発達・学校心理学専攻	臨床心理学専攻	心理学専攻	
2012(平成24)	4	8	11	7	22	0	52
2013(平成25)	2	10	7	4	18	0	41
2014(平成26)	2	9	3	3	14	0	31
2015(平成27)	2	4	3	3	15	0	27
2016(平成28)	2	4	2	3	15	0	26
2017(平成29)	5	3	0	3	10	0	21
2018(平成30)	5	1	0	3	18	0	27
2019(令和元)	2	3	1	2	20	1	29
2020(令和2)	1	2	3	1	19	2	28
2021(令和3)	2	1	2	0	18	1	24

卒業生・修了生数の推移 (2011-2021)

●学部 (2011～2021)

期生	年度	国際言語文化学部(人間文化学部) ^{※1}		心理学部			生活福祉文化学部	現代人間学部			合計
		英語英文学科	国際日本文化学科 (人間文化学科) ^{※1}	心理学科			生活福祉文化学科	生活環境学科 (福祉生活デザイン学科) ^{※3}	心理学科	こども教育学科	
				学校心理専攻	臨床心理専攻	現代心理専攻 (発達心理専攻) ^{※2}					
48	2011(平成23)	122	57	63	73	15	73	-	-	-	403
※49	2012(平成24)	4	2	0	1	1	2	-	-	-	10
49	2012(平成24)	106	43	43	53	16	64	-	-	-	325
※50	2013(平成25)	3	0	1	3	0	5	-	-	-	12
50	2013(平成25)	66	46	40	55	12	69	-	-	-	288
※51	2014(平成26)	1	3	2	4	0	2	-	-	-	12
51	2014(平成26)	54	57	46	64	12	75	-	-	-	308
※52	2015(平成27)	4	2	2	0	0	4	-	-	-	12
52	2015(平成27)	66	39	27	61	11	86	-	-	-	290
※53	2016(平成28)	2	1	0	0	0	1	-	-	-	4
53	2016(平成28)	58	44	40	63	21	71	-	-	-	297
※54	2017(平成29)	2	1	1	1	0	3	-	-	-	8
54	2017(平成29)	94	46	36	39	15	70	-	-	-	300
※55	2018(平成30)	1	0	0	0	0	0	-	-	-	1
55	2018(平成30)	54	33	29	44	15	59	-	-	-	234
※56	2019(令和元)	3	2	0	0	0	0	-	-	-	5
56	2019(令和元)	66	41	33	44	11	74	-	-	-	269
※57	2020(令和2)	1	3	1	4	1	2	-	-	-	12
57	2020(令和2)	65	31	1	2	1	1	32	49	42	224
※58	2021(令和3)	2	1	0	1	0	-	1	0	0	5

※1 2019年度に人間文化学部から国際言語文化学部へ、人間文化学科から国際日本文化学科へ名称変更
※2 2013年度に発達心理専攻から現代心理専攻へ名称変更
※3 2021年度に福祉生活デザイン学科から生活環境学科へ名称変更

●大学院 (2011～2021)

期生	年度	人間文化研究科(修士課程)			心理学研究科(博士前期課程)		心理学研究科(博士後期課程)	合計
		応用英語専攻	生活福祉文化専攻	人間文化専攻	発達・学校心理学専攻	臨床心理学専攻	心理学専攻	
9	2011(平成23)	1	0	2	1	7	0	11
※10	2012(平成24)	0	1	2	0	0	0	3
10	2012(平成24)	1	1	3	5	11	0	21
※11	2013(平成25)	0	2	1	0	0	0	3
11	2013(平成25)	0	0	3	1	10	0	14
※12	2014(平成26)	0	0	0	0	0	0	0
12	2014(平成26)	1	5	2	1	8	0	17
※13	2015(平成27)	0	0	0	0	0	0	0
13	2015(平成27)	0	1	1	2	3	0	7
※14	2016(平成28)	0	0	0	0	0	0	0
14	2016(平成28)	0	1	2	1	10	0	14
※15	2017(平成29)	0	0	0	0	0	0	0
15	2017(平成29)	0	2	0	1	3	0	6
※16	2018(平成30)	0	0	0	0	0	0	0
16	2018(平成30)	2	0	0	2	7	0	11
※17	2019(令和元)	0	0	0	0	0	0	0
17	2019(令和元)	1	0	0	1	8	0	10
※18	2020(令和2)	0	0	0	0	0	1	1
18	2020(令和2)	1	0	1	1	9	0	12
※19	2021(令和3)	0	0	0	0	0	0	0

※9月卒業





「シスターに導かれて」

鷺見 朗子(旧姓:元好)

京都ノートルダム女子大学
国際言語文化学部国際日本文化学科 教授
文学部生活文化学科 1984年度卒業(第21期生)

本学への入学は亡き母の願いでした。そこで過ごした4年間は、シスターとのあたたかな思い出にあふれています。もっとも思い出深い必修科目「調理実習」の担当教員は、シスター・テレサ・マーガレットでした。『調理のよろこび』という分厚い著書による授業は、厳しかったけれど、とても楽しいものでした。真剣な表情のシスターに見守られながら、白衣と茶色の上履きを身につけ、友人と夢中になって調理している情景が昨日のことのように目に浮かびます。皆で助け合って取り組むことの大切さ、シンクのため洗いやゴムベラの使用でものを無駄にしないことなど、多くを学びました。

ゼミの指導教員であったシスター・メリーアン押山先生には、私が一番辛かった時期を支えていただきました。大学3年次生の春、母が重病を患っていたときのことで。当時学生部長をされていた先生には、旧本館にあった学生課で、定期的に卒論指導を受けていました。お会いする度に母のことを親身になって聴いてくださり、「毎日神さまにお母様のことをお祈りしているのよ」とおっしゃっていただいたことが、私にとって大きな慰めになっていました。母の希望通りに、本学へ入学してよかったと心から思っています。



「ノートルダムの思い出と私」

やなぎだ 柳田 かおり(旧姓:鬼丸)

一般社団法人米粉コンシェルジュ協会 代表理事
文学部英語英文学科 1992年度卒業(第29期生)

創立60周年、おめでとうございます。ノートルダムでの大学生活4年間のさまざまな経験は、私にとってその後の会社員、そして独立して現在の仕事に携わるうえで基盤となっています。

その中でも特別なことが二つ。一つは、4年間の寄宿舎生活です。寄宿舎での暮らしは、先輩・同期・後輩といった年齢や育った環境の違う方々との関わりから、他人を尊重し助け合うことを学びました。

もう一つは、箏曲部での活動。真剣に取り組んだ4年間でした。お琴のお稽古を通して、何事も諦めずに取り組むという精神を養いました。毎年秋に開催される定期演奏会では、3回生の時の演奏会運営業務が特別なものとして心に残っています。仲間と協力して運営業務を遂行し、演奏会を成功させました。当時私は企業という営業的要素のある「渉外」として他大学との交渉や企業へのパンフレット広告掲載依頼などの業務を行いました。会社員時代は今もその時の経験が私の糧となっています。

学生時代のさまざまな経験が私の人生を豊かにしてくれていることを誇りに思っています。

素晴らしい環境が整った京都ノートルダム女子大学の今後のますますの発展を心よりお祈り申し上げます。



「学生時代を思い出して」

灘 明日香

京都市発達障害者支援センターかがやき
発達支援部門チーフ
心理学部心理学科学校心理専攻卒業
2010年度卒業(第47期生)
心理学研究科発達・学校心理専攻修了
2012年度修了(第10期生)

創立60周年おめでとうございます。私は現在、京都市発達障害者支援センターで心理士として勤務をしています。発達障害のお子さんや保護者の支援、発達障害の方に関わる人たち(保育・教育関係、司法関係など)への普及啓発といった業務を担っています。このような福祉、地域支援に携わりたいと思ったきっかけは先生方だったなと思ひします。

私は、心理学や教育を学ぶために心理学部を選んだのですが、講義を受ける中で発達心理学の面白さに気付き、深く学びたいと思うようになりました。発達心理学を学ぶにつれ、地域支援に携わっておられる先生から、現場での様々なエピソードをお聞きし、心理士が多方面で活躍できることを知り、地域で人の役に立つことを知ることができました。私はとても手のかかる学生だったのですが、少人数かつ先生方と学生との距離が近いからこそ、粘り強く教えていただき、現在に繋がっていると感じます。

現場に出てから、あの先生の講義をもう一度受けたいと思うことがよくあります。今聞くとより理解ができると思うのですが、当時の私はそこまで理解が至らず…もったいないことをしていたなと少し後悔しています。



「ノートルダムでの出会いが始まり」

近藤 ゆみ

オブテックスグループ株式会社 IRチーム 秘書
人間文化学部英語英文学科
2013年度卒業(第50期生)

卒業して8年経った今でもふと会いたくなる、ノートルダムで出会った友人たち、先生方、職員の方々、久しぶりに立ち寄りたくなる母校に出会えたことは私にとって宝物です。

4年間で特に思い出深いのは、日本語教員養成課程での香港実習です。この教育実習で私の人生は大きく変わりました。恩師の堀勝博先生に助けていただきながら仲間と夜遅くまで残って準備し臨んだ実習。優しい眼差しで楽しそうに授業を受けてくれた香港の生徒たち。そんな教育実習を通して私は日本語教師という職業に心を奪われ、海外で日本語を教えるという夢を見つけました。卒業後は民間企業に就職したものの、その夢を叶えたい想いが消えることはなく、JICA海外協力隊の日本語教師として2年間ブラジルで活動することを決意しました。その時も堀先生やノートルダムの先生方に応援していただき、母校という強い心の支えのもと、私は叶えたかった夢の一つ実現することができました。

ノートルダムでの出会いや経験が私をいろんな可能性に導いてくれました。そしてこれからも、ノートルダムで得たことを人生の糧として歩んでいきたいと思います。母校、ノートルダムに心から感謝しています。

新任教員紹介

現代人間学部心理学科
教授

長田 洋和

この度、現代人間学部心理学科教授に赴任致しました、長田洋和(おさだひろかず)と申します。以後、お見知り置きのほど、何卒、よろしくお願い申し上げます。

これまで17年間大学教員として多くの学生に心理学を、そして公認心理師、臨床心理士といった心理職をめざす学生への実践・研究教育を行って参りましたが、本学にご縁をいただき、恐悦至極に存じます。

本学では健康医療心理学そして生理・神経心理学を教授いたします。研究・実践では主に行動面・情緒面の問題を抱える人に対する心理的支援法および評価法の開発、ならびに国民レベルでのメンタルヘルスリテラシーの向上に関する研究を進めています。なかでも、メンタルヘルスリテラシーの向上は、わが国の国民レベルでの精神障害、発達障害に対する偏見やスティグマを減らすこと、ひいてはダイバーシティを推進することにつながると考えており、私のライフワークとして関わり続けていきたいと思っております。

私は、大学教授であり、臨床心理士であり、精神保健福祉士であり、そして公認心理師でもあります。心理職として、心の病、社会への不適応を抱える人への心理的支援を継続して行っており、本学の学生、特に心理職をめざす学生に、これまで私が研究・実践で培ってきたことを還元し、社会の中で、自立し、学び、成長し続けられるような人材の育成に尽力致したいと思っております。何卒、よろしくお願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学と京都両洋高等学校との
高大連携に関する協定を締結

開催日:2021年3月26日(金)

2021年3月26日(金)、京都ノートルダム女子大学(京都市左京区、学長 中村 久美)と京都両洋高等学校(京都市中京区、校長 角田 良平)は、高大連携に関する協定の締結、調印式を執り行いました。

高大連携は、大学と高校との教育交流を通じて、高校生に新たな学びの場を設けることにより、高校生が各自の進路選択の一助とするほか、自己実現のために努力する姿勢を養うことを意図しています。

本協定では、教育に関する情報交換や協議はもとより、大学入学前教育や本学教員による出張授業の実施、大学授業科目や公開講座への高校生の受け入れ、推薦入学の促進等、両校にとって相互に有益な連携事業を行います。

協定書の締結・調印式にあたっては、学長と校長の挨拶を交換した後、厳かに調印式が行われ、今後の高大連携事業の可能性について確認を行いました。

京都ノートルダム女子大学と和歌山信愛高等学校との
高大連携に関する協定を締結

開催日:2021年5月14日(金)

2021年5月14日(金)、京都ノートルダム女子大学(京都市左京区、学長 中村 久美)と和歌山信愛高等学校(和歌山県和歌山市、校長 シスター 森田 登志子)は、高大連携に関する協定の締結、調印式を執り行いました。

高大連携は、大学と高校との教育交流を通じて、高校生に新たな学びの場を設けることにより、高校生が各自の進路選択の一助とするほか、自己実現のために努力する姿勢を養うことを意図しています。

本協定では、教育に関する情報交換や協議はもとより、大学入学前教育や本学教員による出張授業の実施、大学授業科目や公開講座への高校生の受け入れ、推薦入学の促進等、両校にとって相互に有益な連携事業を行います。

協定書の締結・調印式にあたっては、学長と副校長の挨拶を交換した後、厳かに調印式が行われ、今後の高大連携事業の可能性について確認を行いました。



「THE世界大学ランキング日本版2021」、「国際性」分野にランクイン

2021年3月25日に発表された「THE(Times Higher Education)世界大学ランキング日本版2021」の4分野(「教育リソース」、「教育充実度」、「教育成果」、「国際性」)のうち「国際性」が全国61位にランクインし、近畿エリアの女子大学では大阪女学院大学に次いで2位という結果となりました。

今回本学がランクインした「国際性」分野の指標は、ランキング指標全体の20%を占めており、「外国人学生比率(大学全体の在籍学生数のうち在籍外国人学生数の割合)」、「外国教員比率(全教員数のうち在籍外国教員数の割合)」、「日本人学生の留学比率(全在籍学生数のうち日本人学生の留学比率)」、「外国語で行われている講座の比率」の4つの項目から構成され、留学制度の整備だけでなく、国際性を培う教育環境の整った大学として評価されています。



2021年度科研費採択について

科学研究費助成事業(科研費)は、人文学・社会科学から自然科学までの分野にわたる研究者の自由な発想に基づく研究を発展させることを目的とする国の助成制度です。

2021年度、現時点では本学からは新たに5件の研究が採択されました。昨年度以前から継続している研究と合わせて現在34件の研究が行われています。また、これに加えて本学の教員

が、「研究分担者」として共同研究を行っている課題が24件あります。

本学では、科研費による研究のほかにも、本学独自の研究助成制度などにより各分野でさまざまな研究が行われ、研究成果は学生への教育に生かされるとともに、よりよい社会の実現や学術の発展に貢献しています。

2021年度の新規採択課題(本学教員が研究代表者)

所属・職名	研究代表者氏名	研究種目	研究課題名
英語英文学科 講師	Lyle De Souza	若手研究	Nikkei Global Literature: Diaspora, Race, Identity & Belonging
生活環境学科 教授	藤原 智子	挑戦的研究(開拓)	思春期の欠食とダイエットで性差をもって"リプログラミング"される食欲と代謝効率
心理学科 准教授	村松 朋子	基盤研究(C)	PE療法にバイオフィードバック法を併用したPTSD治療の開発
心理学科 准教授	空間 美智子	研究成果公開促進費(学術出版)	セルフコントロールを育てる心理学:行動分析学からのアプローチ
こども教育学科 教授	渡邊 春美	研究成果公開促進費(学術出版)	戦後古典教育実践史の研究—古文教材を中心に—

文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に採択

全学で取り組んできた、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に、関西の女子大学で唯一採択されました。DX(デジタル・トランスフォーメーション)により、ITを使ってよりよい教育へと変化をうながすための補助金事業です。「小規模女子大学における『ブレンド型授業モデル』の創出—『つまりき経験』で『前向き力』を涵養する個別最適化プラン」と

題して、デジタル技術を活用しつつ、試行錯誤を重ねる中で自ら課題を発見し解決する力—「つまりき経験」を通して壁を越え、不確実な時代を自信を持って学び続ける—「前向き力」を養うことを目標としています。

各部署と連携し、全ての学修者にとってより適した教育の実現をめざすため、DXを推進していきます。

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定

2021年8月4日付けで京都ノートルダム女子大学の「情報活用能力プログラム(基礎)」が、文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定されました。

この数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成するため、その知識および技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)により数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上およびその機会を図ることを目的としています。

今回の認定では国公立大学等から67プログラムが認定され、京都の私立大学では本学が唯一の認定でした。

「情報活用能力プログラム(基礎)」

情報社会において必要な情報科学の知識・技能を身につけるとともに、それらが社会に与える影響を理解したうえで、新たな情報を作り出し、課題を発見し、その解決に向けて主体的に解決策を検討し、実践できる人材の養成を目的とします。

※2021年度以降の入学者には、「情報活用能力プログラム」として、新たなプログラムがスタート。上級情報処理士資格取得をめざすことも可能です。

文部科学省サイト



情報活用能力プログラム



(有効期限:令和8年3月31日)

本学の留学生1名が京都府名誉友好大使に任命されました

令和3年度の京都府名誉友好大使15名のうちの1名として、本学福祉生活デザイン学科3年次生、香港出身の梁 凱欣(リョウ ホイヤン)さんが選ばれました。そして2021年6月19日(土)に京都府立府民ホールにて、京都府名誉友好大使の任命式が行われました。

京都府名誉友好大使は、京都府と世界各地の「かけ橋」として、地域の異文化理解講座に参加したり、母国文化紹介ワークショップを企画・実施したりと、さまざまな活動に参加しています。本学には梁さんを

含め、現在3名の外国人留学生が京都府名誉友好大使として活躍しています。梁さんも京都府名誉友好大使として、地域の国際化に大きく貢献してくれることを期待しています!



梁 凱欣(リョウ ホイヤン)さん

2021年度特待奨学生証書授与式

開催日:2021年7月21日(水)

2021年7月21日(水)12時30分より、ユージニア館3階NDホールにて、新型コロナウイルス感染対策を十分に講じた上で2021年度特待奨学生証書授与式を執り行いました。中村学長より2年次から4年次の特待奨学生一人ひとりに、特待奨学生証および特待生奨学金10万円の目録が手渡されました。

特待生奨学金は、前年度に極めて優秀な成績を収め、かつ人物がすぐれ、ほかの学生の模範であると認められた者に給付されるものです。特待生として認められた皆さんが、知性と品性を兼ね備えた自立した女性をめざしてさらに熱意をもって勉学に励み、本学のリーダーとして活躍されることを期待しています。



特待奨学生

4年次生

英語英文学科	田中 詩乃
国際日本文化学科	井上 歩佳
福祉生活デザイン学科	松江 優咲子
心理学科	吉田 莉子
こども教育学科	境 菜生

3年次生

英語英文学科	永島 侑季
国際日本文化学科	井原 菜々子
福祉生活デザイン学科	池内 葉月
心理学科	河野 真由
こども教育学科	今村 羽衣

2年次生

英語英文学科	石原 瑚心
国際日本文化学科	石原 彩希
福祉生活デザイン学科	北野 涼
心理学科	田之上 香名
心理学科	渡邊 百映
こども教育学科	石井 陽

学内ワークショップ「Summer Career Meetup Notre Dame」

開催日:2021年9月15日(水)~9月17日(金)

今年度は正課科目として実施しているインターンシップへの参加希望が例年と比べて非常に多く、学内選考を行った結果、参加が叶わなかった学生もありました。

そこで、インターンシップ以外でも学生に就業経験や企業との接点を提供することを目的に、新たな試みとして、PBL(課題解決)型のワークショップを学内で開催しました。

具体的には9月15日から17日の3日間、滋賀県内でフリーペーパーを発行する「株式会社チェキボン」に協力いただき、企業が実際に抱えている課題をグループで分析し、改善提案を学生がプレゼンテーションする、という流れで実施しました。

10名の参加者がアイデア別に3グループに分かれ、中間発表を経て最終日に最優秀賞をめざしました。

最終プレゼンテーションでは、各グループがしのぎを削って熱いプレゼンテーションを行い、企業から各提案に対して真摯にフィードバック

をいただきました。また、実際にフリーペーパーを作成する際のアイデアとして活用できるものもある、と高い評価を頂戴しました。

企業への企画提案という3日連続のワークを通じて、参加した学生のアンケートからは学生と社会人の違いを知ったことで、就職活動や学生生活に対する意識の変容が見られました。また、グループワークにおける協調性や役割意識、またプレゼンテーションにおける基本的な流れやポイントが学べたという声もあり、好評のうちにフィナーレを迎えました。



第60回ND祭「Re:~come back festival~」を終えて

開催日:2021年10月23日(土)・24日(日)

2021年度ND祭当日は、とても綺麗な青空でND祭日和でした。今年度のND祭は、従来の規模に近い形で開催できるよう準備を進めてまいりましたが、準備時期に第5波が到来したため、苦渋の決断で学内生のみ入場可能とさせていただきました。さまざまな制限がある中、実行委員たちは「今できること」を模索し、少しでもND祭が盛り上がるよう何度も話し合いを重ねました。

1日目は、クラブ発表、交流会やビンゴ大会でお越しいただいた学生の皆さんには本学のクラブやサークルの魅力が溢れるND祭を楽しんでいただけたのではないのでしょうか。今年はコロナ禍で発表の機会を失ったクラブに少しでも発表の場を設けたいという想いより、ステージの舞台や背景を実行委員たちの力で手作りしました。中庭ステージで行ったクラブ発表やビンゴ大会は多くの方に見てもらうことができ、大いに盛り上がりました。また、胡粉ネイルで有名な上羽絵惣株式会社さんとコラボし、ネイルの体験会・販売を行いました。

2日目は、俳優の神尾 楓珠さんをお迎えし、トークショーを開催しました。対面形式だけでなく、一般の方も楽しんでいただけるようオンライン配信型のトークショーも開催しました。普段私たちが講義を受けているNDホールを会場にし、ゲストの神尾さんを間近で楽しむことができました。2年ぶりのトークショーということもあり、終演後、たくさんの笑顔が見られました。

コロナ禍だからこそ、学生が楽しめるようなND祭をめざして準備を行ってきました。準備を進めていくうえでさまざまな問題がありましたが、学長先生・学生委員会の先生方をはじめとする多くの方々の後押しもあり無事に終えることができました。実行委員一同心より感謝しております。2022年度はこれまでの経験を生かし、さらに楽しんでいただけるようなND祭を開催できるよう取り組んでまいりますので、これからもご支援いただきますようお願い申し上げます。

(ND祭実行委員会 委員長 心理学科3年次生 倉 遥香)



ホームカミングデーを開催しました

開催日:2021年10月23日(土)・24日(日)

コロナ禍で叶わなかったアカデミックガウンとキャップ着用を実現

ホームカミングデーで卒業生がアカデミックガウン・キャップを着用しました

日本の大学では珍しく、本学では卒業式にアカデミックガウンとキャップを着装して臨みます。このアカデミックガウンとキャップの着装は卒業生にとって重要な意味を持ちますが、2019年度の卒業式ではコロナ禍により開学以来絶えず続いていたこの風景を見ることは叶いませんでした。

そこでこの度、10月23・24日(土・日)のホームカミングデーにて、2019年度卒業生(希望者のみ)を対象としたアカデミックガウンとキャップの着用機会を設け、卒業後1年半の年月を経て、卒業生との約束を実現しました。

これには卒業生の約4割が参加し、参加者からは喜びの声をいただきました。



学生の声

「あのガウンをやっと着ることができた!」大学から今回の件について聞いたとき、心が躍りました。自分のなかでは諦めがついていたつもりでも、やはり心の何処かでガウンを着たかったという気持ちが残っていたんだと思います。当日は、友人と一緒に着られたことで、大学時代のことをたくさん思い出すことができ、感慨も一入でした。

このような機会を作っていただき、たいへん嬉しく思います。ありがとうございました。

(大学院人間文化研究科人間文化専攻2年次生 開田 絢子)



活躍する卒業生

桃山学院教育大学 人間教育学部人間教育学科 准教授
オチャンテ 村井 ロサ メルセデス さん
(人間文化学部生涯発達心理学科 卒業生)



京都ノートルダム女子大学の皆さま、卒業生のオチャンテ 村井 ロサ メルセデスです。現在、桃山学院教育大学に准教授として勤めています。外国人児童生徒の教育、特に移民第二世代のキャリア支援について研究・活動をしています。大学では多文化共生論や異文化間教育の授業などを担当しています。

京都ノートルダム女子大学に入学してからもう約20年経ちます。大学では「人間文化学部生涯発達心理学科」に所属していました。また3年間、大学内の寮で生活していました。

大学生活で最も印象に残っているのは、キャンパスミニストーリーでシスターたちとの交流の時間、また当時の学長先生が主催していたキリスト教サークル、分からないことがあったらいいに指導してくださっていた先生方の姿です。学生の時に学内で開催されていた行事に積極的に参加して、さまざまな年代の方と交流することができました。その中で大きかった出会いは、大学1年次生の時、先輩につれられ、ペルーの子どもたちの支援を行なっているNGO団体「大阪ラテンアメリカの会」に関わるようになったことで、今は

代表をしています。約20年間、寄付された絵本の翻訳作業、ペルーに算数ドリルを配布するお手伝いをしていました。今はコロナ禍で活動を縮小していますが、興味がある学生がいたらHPを確認して連絡ください。

また、2020年には文部科学省総合教育政策局が設置した「外国人児童生徒等の教育の充実に関する有識者会議」の委員に任命いただき、外国人のこどもに対する就学を見据えた教育展開について提言をさせていただきました。

2021年には文科省の中央審議会の「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」にて、これからの社会に必要な幼児教育についての検討を進めています。

私から皆さんにお願いがあります。京都ノートルダム女子大学生としての誇りを持ってください。私は社会に出て、京都ノートルダム女子大学の卒業生で尊敬できる活動家の女性と多く出会いました。お仕事や子育てで社会に貢献し活躍している先輩は多いです。皆さんも大学生生活の4年間、夢に向かって活動してください。チャンスは自分で探しに行かないといけないし、学業、資格等は全部自分の将来の武器になります。自分を磨くために大学に在るということを忘れずに、一歩ずつ前進しましょう。外面だけではなく、内面性も美しく「Notre Dame」「聖母マリア」のような素直で優しい女性になってほしいと思います。



ペルーの子どもたちに算数ドリルを配布するボランティア活動に参加

カトリック教育センター主催

春の講演会「最後の晚餐」と「食」の美術 実施報告

開催日:2021年5月28日(金)

5月28日(金)17時30分より、日本を代表する美術史家であり神戸大学大学院教授の宮下規久朗氏をお招きし、オンライン(Zoom)による春の講演会を開催いたしました。宮下氏はイタリアバロック美術(特にカラヴァッジョ)がご専門で、多くの学術研究と並び、展覧会の企画や多数の書籍の執筆などで活躍しておられます。

今回の講演は、西洋美術に食を扱ったものが非常に多い(東洋には全くない)のは何故か、という問題提起に始まり、西洋においてはキリスト教の影響、とりわけ最後の晚餐によって食事というものが神聖な意味を持つようになり、美術の中心テーマになっていったという系譜を初期キリスト教時代から近現代までのさまざまな作品を通して、分かりやすく解説されたものでした。

本来、この講演会は昨年度に開催する予定でしたが、コロナ禍により今年度に延期され、さらに全面オンラインで開催することとなりました。参加者は関西よりも首都圏の方が多かったことは、今までになく画期的なことでありました。



国際言語文化学部 国際日本文化学科

フィールドワーク実施(修学院離宮)

開催日:2021年7月21日(水)

2021年7月21日(水)、3年次生向け専門演習「西洋美術史ゼミ」では、コロナ禍のもとで初のフィールドワークを実施しました。感染リスクがきわめて低い修学院離宮が目的地です。

学生からは、「田んぼや所々におられた方々がトトロのワンシーンのよう。このような自然豊かな場所が保存されていることがすごい」「珍しい仕組みの建物など良い経験になった」「松の植えられ方がとても均等で印象に残った」「一歩入るだけで空気が違う感じがした。緑が多く、風も通って、夏でも涼しく感じた」「中離宮から上離宮に続く松並木の前に景色が開けたときの素晴らしさは忘れられない」といった感想が寄せられました。

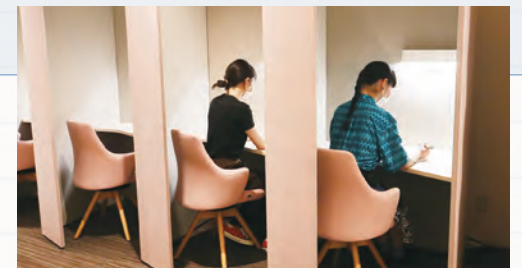
今年度の3年次生は日本の教会建築・文化財保存・ヨーロッパ絵画・日本画・日本近代洋画に取り組んでいます。普段は書籍やウェブ上の情報を扱っているのですが、美術史では本物の作品に触れることが決定的に重要です。制限はありましたが、日本を代表する建築・庭園を体験する時間を持てて良かったと思っています。

(国際日本文化学科 吉田 朋子)



個別学習ブースを設置

授業のオンライン化やブレンド型の導入により、学内で個別に受講できるスタディスポットの整備を各部署と連携し、かねてから進めてきました。このたび新たに、一つひとつが仕切られた個別学習ブースをユーニア館4階に設置しました。より集中して学習したい時、動画を見ながら学習したい時などに活用してください。



教員免許状更新講習 実施報告

開催日:2021年8月18日(水)～8月24日(火)

2021年度の教員免許状更新講習は必修(6時間)1講習、選択必修(6時間)2講習、選択(6時間)2講習の合計5講習を8月18日(水)から8月24日(火)の期間において、オンライン授業にて実施しました。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、例年好評の体育や音楽の対面授業による講習は実施できませんでしたので、幼稚園や小学校の教員の方の受講は少なくなりましたが、中学校・高等学校の教員の方々に受講いただきました。

オンデマンド配信による講習となりましたので、みなさんの都合のよい時間帯に講習を受講することができ、現職の教員の方の負担軽減になったようです。通常であればなかなか受講いただけない遠方地域の方の受講もあり、例年に比べ講習数は少なくなりましたが、受講者のみなさんには満足いただける更新講習となりました。

コード	講習名	開催日	時間数	講師	主な対象者
A01	【必修】 教育の最新事情	8月18日(水)～8月24日(火)	6時間	小川 博士 薦田 未央 佐藤 睦子 石川 裕之	全教員
B01	【選択必修】 教育の情報化に対応する実践力育成(幼・小)	8月18日(水)～8月24日(火)	6時間	神月 紀輔	全教員
B02	【選択必修】 教育の情報化に対応する実践力育成(中・高)	8月18日(水)～8月24日(火)	6時間	神月 紀輔	全教員
C01	【選択】 アクティブラーニングとESDの実践	8月18日(水)～8月24日(火)	6時間	大西 慎也 小川 博士	全教員
C02	【選択】 こんなに違う世界の学校－教育事情の国際比較－	8月18日(水)～8月24日(火)	6時間	石川 裕之	全教諭

SD研修を実施しました

開催日:2021年8月31日(火) 評価者・被評価者研修
9月2日(木) 主任職研修

2021年8月31日(火)、午前に評価者研修、午後に被評価者研修が行われました。評価者研修は部下の人材育成および目標達成に向けた動機付けを行うことを目的とした研修で、16名の管理職職員が受講しました。被評価者研修は具体的な目標の設定方法を、主任以下27名の職員が受講しました。両研修とも3時間という限られた時間ではありましたが、アンケートの結果から満足度が高く、評価方法や目標の立て方が明確になったという感想が多く見受けられました。

また、9月2日(木)は終日主任職研修が行われ、11名の主任職員が受講しました。課内で果たすべき役割について、日々の業務に繋がれる気づきを得た者が多く、有意義な一日となりました。



前期卒業式・学位授与式が執り行われました

開催日:2021年9月24日(金)

2021年9月24日(金)、ユージニア館3階の聖堂にて前期卒業式が執り行われました。秋晴れの爽やかな日でしたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため列席者を制限し、マスク着用等の対策を徹底したうえでの式典となりました。

教職員や保護者が見守る中、本学伝統のキャップとガウンを身にまとった卒業生に、中村久美学長から一人ひとり卒業証書が手渡されました。学長式辞では、この夏開催された東京オリンピック・パラリンピックについて述べられ、「多様性を尊重する思慮深さと勇気をもちつつ、唯一無二の自分の人生を、「何度でも生きたい」と思えるように、精いっぱい生きていってください」と激励の言葉が述べられました。

式典終了後はお世話になった教員との別れを惜しみながらも、晴れやかな笑顔で記念撮影をする様子が見られ、学部生5名は希望を胸に未来に向かって新たな一歩を踏み出しました。



国際言語文化学部 英語英文学科

KNDU Virtual Study Abroad Program

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、昨年度より英語英文学科グローバル英語コースの学生をはじめ、多くの学生が海外留学へ行くことができなくなっています。そのような中、少しでも英語圏留学に近い経験ができる場を担保したいとの思いから、英語英文学科はヴァーチャル留学プログラムを立ち上げました。現時点では主に以下の2つの内容を実施しています。1つ目が学外の英語ネイティブ・スピーカーの教授陣によるリレー形式の集中講義、2つ目が世界各地の学生とオンラインで繋がり、協働で仕上げるプロジェクト作業です。

このうち1つ目の集中講義が、2021年3月1日から19日の3週間にわたり行われました。オンラインで3名の講師が、異文化観察、グローバル・サステナビリティ、また、第4次産業革命以降の職業選択などといった多様なトピックについて、リレー講義を

行いました。学生はより高度な英語力だけでなく、世界規模の問題の解決を探るために有効な幅広い視点を身につけるべく課題をこなし、ディスカッションに参加しました。

9月からは、上記2つ目のプロジェクトが進行しています。詳細は次のキャンパス通信でご報告します。



現代人間学部 こども教育学科

コロナ禍の実習や模擬授業などの学びについて

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が21都道府県に出ている中、こども教育学科では、保育現場や教育現場での実習等を、学生や関わる人の健康や命を最優先し、大学のマニュアルによる感染対策を万全に行いながら、学びを止めないようにしています。

保育士資格取得に必要な施設実習は、学内での代替実習の形で取り組みました。乳児院や児童養護施設、障害児施設、母子生活支援施設に関する講義だけでなく、製作(写真はお祭りをテーマにした壁面構成)や調理実習なども行いました。



幼稚園・小学校の教育実習に向けては、8月10日に集中講義で、少人数のグループに分かれ模擬授業を行いました。実践だけでなく、グループでリフレクションに取り組むなど、現場での実践に近い取り組みを進めました。

特別支援学校での教育実習にむけて、3年次生は知的障害児を想定した模擬授業に取り組みました。この学年はコロナ禍の影響で介護等体験が代替措置となり、特別支援学校等を体験していない学生が多かったため、授業づくりに苦労している姿も見られました。



現代人間学部 心理学科

心理実習が始まりました

現代人間学部心理学科では、将来、公認心理師をめざしている学生が勉強しています。今年から、公認心理師養成のための「心理実習」という科目が始まりました。事前指導・事後指導など学内の実習と施設での実習を合わせて90時間学びます。今年度は、感染症の影響でリモート実習も多いのですが、みんなで一緒に単位取得のために頑張っています。

写真は、外部の実習先である大阪府守口市市民保健センターで、リモート実習が行われているところです。実習先の保健師さんが、保健センターでの業務についていねいに説明してくださいました。健康のためのがん検診や健康相談、母子のための定期健

診が行われているのは知っていましたが、自殺対策・自殺阻止のための啓発なども行われていると聞き、保健センターの幅広い活動に驚く学生もいました。また、保健センターと他部署の上手な連携についても教えていただき、心理師となったときのイメージも持てたようでした。



ND教育センター・教務委員会・FD委員会 共催

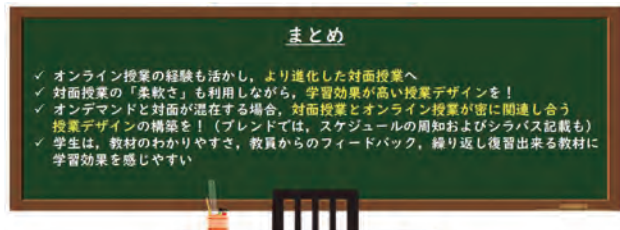
今後の授業デザインを考えるワークショップ開催報告

開催日時:2021年9月22日(水)
10時45分～12時15分

2020年から続くコロナ禍をきっかけに、オンライン授業が大学教育の中に大きく組み込まれるようになりました。学生の学びを止めることのないよう、必要に駆られて始まったものではありませんが、さまざまな試行錯誤を繰り返す中で、新たな教育実践の可能性も広がってきています。学生の学習効果の観点から、どのような授業デザイン(学習者がいつ・どこで、どのように学ぶか)が最適かを改めて検討し、オンライン授業期間の経験も生かした、より発展的な対面授業の実施の一助となるよう、ND教育センター・教務委員会・FD委員会共催の「今後の授業デザインを考えるワークショップ」を開催いたしました。

遠隔授業に関する文部科学省の動向、本学の学生・教員対象アンケート結果から見える授業実施方法のポイントの説明の後、ND教育センター長神月先生をコーディネーターとして、心理学科後藤伸彦先生、国際日本文化学科吉田朋子先生、学長中村久美先生に授業実践紹介をしていただきました。

緊急事態宣言下であったため、Zoomを利用した同時配信の開催となりましたが、専任・非常勤教員、職員も含め97名の参加を得ることができ、一堂に会しての研修は、本学の取り組みや先生方の知見を共有していただく場として、たいへん貴重な機会となりました。今後も授業の改善、向上に資する取り組みを検討していきたいと考えています。(ND教育センター・教務委員会・FD委員会)



ND教育センター・FD委員会 共催

第3回 データサイエンス活用カフェ「身近なデータで機械学習」実施報告

開催日:2021年11月2日(火)

AIやデータサイエンスを正しく理解し、使いこなす必要が高まっています。そのような中で、そもそもデータサイエンスに何ができるのか、どう活用していけばよいのかについて学生・教職員が自由に話し合う場が「データサイエンス活用カフェ」です。

今回はウルフラムリサーチ社の金光安芸子先生、北村美穂子先生を講師に迎え、「身近なデータで機械学習～AIは『きのこの山』と『たけのこの里』を見分けられるか?～」というテーマで開催しました。

当日は、本学の教職員と学生合わせて23名が参加し、大量のデータをあらかじめ分析することでデータを分類したり、結果を予想したり

できる「機械学習」の例を、チョコレートを使って体験しました(写真参照)。(今も、<https://wolfr.am/ZdeFy5FB> で体験可能!)
今回は身の回りのAIとして「機械学習」に入門できたので、次回は応用編のカフェを予定しています。



ND教育センター

ND教育センター事務室・学習アドバイジング・教職ルームについて

2021年9月よりND教育センター事務室が、新たにオープンしました。ソフィア館1階、正面入口から入ってすぐのところで、皆さんのお越しをお待ちしています。manabaや各種学習アドバイジングなど、ぜひご利用ください。
さらに、教職ルームも同じスペースに移動しました。



ND教育センター

ND教育センター学習アドバイジングのご案内

ND教育センターでは、文章作成の基礎、英語、情報などの学習アドバイジングを行っています。

●文章作成アドバイジング学習相談

ソフィア館1階の事務室にて、文章作成の基礎に関する相談を受け付けています。
オンライン講座「文章作成の基礎づくり」
manabaを使用したオンラインアドバイジング「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に学生が取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身につけていきます。

●英語学習アドバイジング

英語多読(Extensive Reading)

無理をせずスラスラと読めるレベルからはじめて徐々にレベルアップしていくことで、日本語に訳さず英語を英語のまま理解する「英語脳」が養われ、4技能(Reading, Writing, Listening, Speaking)が向上する英語多読を推奨しています。多読本は図書館で貸出しています。また、「記録ノート」は事務室でお渡ししています。

英語スキルアップポイント

英語力向上に関するプログラムやイベントなどに参加して英語スキルを高めませんか。
取得ポイントに応じて、TOEIC受験費半額補助あるいは参考書購入補助費(図書カード)に交換できます。ポイントカードは事務室でお渡しします。(英語母語話者を除く)

●情報アドバイジング

情報学習関連の相談を、ユージニア館2階の情報演習室1・2で実施しています。実施日時については、情報演習室前の掲示で確認してください。

●i-Spaceイベント

コリア語チャットルームや英語など、語学力向上や異文化理解を目的としたイベントを開催しています。

行事予定

2021年 12月	1日(水) 1日(水) 1日(水) 2日(木) 3日(金) 4日(土) 8日(水) 10日(金) 10日(金) 10日(金) 11日(土) 11日(土) 15日(水) 15日(水) 15日(水) 18日(土) 18日(土) 22日(水) 22日(水) 24日(金) 25日(土) 27日(月)	【英文】④卒論提出締切(17:00) 【福生デ】④卒論提出締切(12:00) 【全】③キャリアガイダンス(14:55～) 【全】③学内就活写真撮影会 【現心・心理】④第1回認定心理士説明会(16:40～) 補講日 創立記念日・創立60周年記念式典(授業なし) 【国日】④卒論提出締切(17:00) 【こども】④卒論提出締切(17:00) 【福生デ】②ゼミ選択説明会 図書館:冬期長期貸出開始 (学内立入禁止)学校推薦入試Ⅱ期 【心理】④卒業論文・要約集原稿提出締切(17:00) 【現心】④卒業研究発表会資料・要約集原稿提出締切(17:00) 【全】①②③日本学生支援機構奨学金継続説明会(16日(木)いずれかに出席) 【英文】①②③と④GE生英語英文学科指定TOEIC-IPテスト 補講日 【現心】④卒業論文・要約集原稿提出締切(17:00) 【福生デ】④口頭試問(13:10～) 12月授業最終日 (クリスマスの休日) 冬期休暇(窓口事務取扱休止)(1月4日(火)まで)
2022年 1月	5日(水) 8日(土) 8日(土) 8日(土) 12日(水) 12日(水) 12日(水) 12日(水) 13日(木) 14日(金) 15日(土) 22日(土) 22日(土) 22日(土) 24日(月) 26日(水) 26日(水) 27日(木) 28日(金) 29日(土) 31日(月) 1月末	授業再開 TOEIC IPテスト(希望者対象9:30～) 【国日】④口頭試問 【現心】④卒業研究発表会(全日) 図書館:冬期長期貸出返却期限日 【現心】③公認心理師説明会(16:40～) 【生環】①資格説明会 【全】③キャリアガイダンス(4.5講時…どちらかに出席) 【福生デ】③卒論テーマ届出締切(12:00) 【現心・心理】④第2回認定心理士説明会(16:40～)、社会調査士説明会(認定心理士説明会后) 補講日 補講日 【全】③ヴァーチャルリクルート(模擬就活) 図書館:春期長期貸出開始 後期授業最終日 【こども】③④卒論発表会(3講時) (学内立入禁止)一般入試Ⅰ期 【福生デ】④③②【生環】①卒業研究発表・懇談会 定期試験期間 ※定期試験のほか補講を行うことがある。(2月5日(土)まで) 【こども】③卒論題目提出締切(17:00) 【現心・心理】④口頭試問(2月初旬まで)
2月	7日(月) 7日(月) 10日(木) 12日(土) 21日(月) 25日(金)	春期休暇開始(3月31日(木)まで) リーダーズセミナー(8日(火)とも) 【全】③ヴァーチャルリクルート(模擬就活) 大学院入試Ⅱ期 (学内立入禁止)一般入試Ⅱ期 【全】③ヴァーチャルリクルート(模擬就活)
3月	1日(火) 1日(火) 1日(火) 11日(金) 12日(土) 14日(月) 22日(火) 23日(水) 31日(木)	後期追試験(1～3年次生) 卒業予定者再試験 転学部・転学科試験 キャップ・ガウン試着日(卒業予定者) 卒業式・学位授与式、卒業祝賀パーティー (学内立入禁止)一般入試Ⅲ期 【全】新②③④仮登録科目1次募集期間(25日(金)まで) 【全】新②③④2022年度定期健康診断(24日(木)とも) 編入生オリエンテーション(午前)、外国人留学生オリエンテーション(午後)

※①・②・③・④については、学年の数字を表します。(例:①→1年次生、②→2年次生)
※掲載されている情報は2021年11月時点のものです。

京都ノートルダム女子大学創立 60 周年記念事業委員会

委員長

中村 久美 (学長)

委員

須川 いずみ (人間文化研究科長)
 向山 泰代 (心理学研究科長)
 岩崎 れい (国際言語文化学部長)
 牛田 好美 (現代人間学部長)
 小山 哲春 (英語英文学科主任)
 河野 有時 (国際日本文化学科主任)
 酒井 久美子 (生活環境学科主任)
 伊藤 一美 (心理学科主任)
 田中 裕喜 (こども教育学科主任)
 佐藤 純 (学生部長)
 松岡 正和 (事務局長)
 小山 みちる (管理運営部長)
 小林 忍 (教育支援部長)
 事務局：管理運営部 総務課

各実行委員会(ワーキング)(掲載50音順)(※座長)

記念式典ワーキング

安宅 愛 (学事課主任)
 牛田 好美 (生活環境学科教授)
 ※北村 暁子 (総務課主任)
 酒井 久美子 (生活環境学科教授)
 柴田 有理 (キャリアセンター事務室主任)
 田中 裕喜 (こども教育学科教授)
 野田 綾子 (教務課主任)
 本多 成二 (施設課長)

記念誌ワーキング

岩崎 れい (国際日本文化学科教授)
 川野 雄一郎 (研究・情報推進課主任)
 河野 有時 (国際日本文化学科教授)
 小山 哲春 (英語英文学科教授)
 佐藤 明子 (入試課員)
 新開 桜子 (広報課員)
 ※寺田 由紀子 (経理課主任)
 向山 泰代 (心理学科教授)

記念動画ワーキング

伊藤 一美 (心理学科教授)
 大越 円 (学生課主任)
 岡村 和明 (広報課主任)
 小西 祐子 (システム管理課員)
 高坂 幸世 (図書館事務室員)
 佐藤 純 (生活環境学科教授)
 須川 いずみ (英語英文学科教授)
 パーシ あゆ美 (国際教育課員)
 ※義田 孝裕 (教育センター事務室主任)

編集後記

未来へ 70周年に向けて

まずはご多忙中、記念号への執筆にご協力いただいた皆様のご尽力に感謝申し上げます。大学報はルヌヴォーとして2013年の第89号まで続き、2014年からNDキャンパス通信と名称を改め現在に到ります。10年前の創立50周年記念特集号第86号を開いてみました。誌面には北山キャンパス整備計画が進行中でキャロライン館の竣工式の様子、オープンクラスが初めて実施されたこと、高大連携の3校目の協定締結が行われたことなどの記事がみられます。そしてサークル活動、行事など学生生活に関する記事は学生の笑顔の写真であふれていました。それから10年後の本報、THE大学ランキングにランクイン、おしゃれな大学のブランド認知、高い教育力を期待されたプロジェクトが認定され、学生の笑顔は健在、大学は未来に向け発展しています。不確実な時代にあって、社会的ニーズへの個別のきめ細かな対応、課題解決のための柔軟な発想力、実行力や創造性がより重要になってくるでしょう。日本人の価値観は物質的な豊かさよりも心の豊かさを求めるよう変化し、自然、文化や芸術、歴史と伝統を日本の誇りと答える人が増えているそうです。来年、京都に文化庁が移転します。京都に立地する大学として、徳と知の精神を持つ若者を育み、発信する本学の役割は大きいです。「70周年に向けて」ということで、“7”という数字について調べてみました。キリスト教では神が天地、万象を6日間で創造し7日目を安息日とされた、ということから数字の7は「完全な、全て」を意味するとされています。7つの海、世界の七不思議、七つ道具、他に「多い」という意味で七変化、七転び八起きなど。そしてラッキー7、幸運の数字です。幸運に恵まれた明るい10年は約束されています。今後もNDキャンパス通信が大学と同窓生、関係者の皆様の絆になることを心より願います。

(広報委員長 竹原 広実(生活環境学科))

●広報委員長 竹原 広実 ●広報委員 木島 菜菜子、平野 美保、大風 薫、佐藤 睦子、太田 容次

京都ノートルダム女子大学 大学報

NDキャンパス通信 Vol.15

2021年12月1日

編集／広報委員会

発行／京都ノートルダム女子大学 広報課

〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地

URL: <https://www.notredame.ac.jp>

E-mail: information@ml.notredame.ac.jp

印刷／株式会社ティ・プラス

本誌は京都ノートルダム女子大学保護者会の資金援助を一部受けています。